

全国世界の水の偉人と研究所のあゆみ



治水の偉人 周藤彌兵衛翁 (1650 ~ 1752) 島根県松江市八雲町



小松電機産業 人間自然科学研究所



目次

1. 人間自然科学研究所タペストリー	1
2. やくも水神タペストリー	2
3. happygate 門番タペストリー	3
4. 全国・世界の水の偉人リスト	4
5. 島根の治水の偉人紹介（周藤彌兵衛・清原太兵衛・大梶七兵衛）	5
6. 水の偉人覚醒顕彰イベント写真集	
1994年 周藤彌兵衛シンポジウム	6
2002年 中国山東省台児荘 孔子・孟子・周藤彌兵衛・清原太兵衛像出発	7
2003年 中国庭園燕趙園に孔子・孟子像を建立	8
2005年 アリゾナ記念館訪問・献花 https://youtu.be/fdBJ-P2nQsE	9
2006年 燕趙園に西王母と八仙人を紹介し建立	10
2007年 燕趙園に孫子像を建立	11
2013年 平和宮 100周年で世界平和事業家 20人に選ばれ式典に出席	12
2014年 ウィーンでズットナー賞を受賞、ズットナー像を貸し出し	13
2014年 周藤彌兵衛翁大銅像建立除幕式	14
2014年 出雲から陽が昇るシンポジウムでズットナー像を日本初公開	15
2015年 水と火の祭り	16
2015年 日英対訳悠久の河 周藤彌兵衛翁物語 出版	17
2016年 悠久の河シンポジウム	18
2017年 アリゾナ記念館訪問・献花	19
2018年 ベルタ・フォン・ズットナー像韓国に向けて出発	20
2019年 韓国李承晩元大統領邸・西大門刑務所歴史館・安重根義士記念館訪問	21
2019年 聖火リレー	22
2019年 全国・世界水の偉人覚醒顕彰祭開催	23
2020年 バルトン 青山霊園墓参	24
2020年 バルトン像再建祝賀式 山本代理出席	25
2021年 第0回国際 Zoom シンポジウム	26
2021年 バルトン像復元リモート 建立式典参加	27
2021年 水の都プロジェクト共同開催 全国水の偉人覚醒顕彰灯籠	28
2021年 日中合作歌劇 蓬萊の國 徐福伝説 オペラコンサート	29
7. やくも水神のご紹介・納入実績地図	30
8. 新聞記事 QR コード集	32
9. おはようサンデー QR コード集（水の偉人関係）	33

人間自然科学研究所 年表



左の QR コードを読み取りご覧ください。



人間自然科学研究所

2021

- 第0回 入雲立つ出雲から「平和・環境・健康はひとつ」国際 Zoom シンポジウム
- ウィリアム・K・バルトン 肖像復元リモート 建立式典
- 令和3年度まつえ市民大学入学式記念講演
- 平和・環境・健康はひとつ 故きを温ね新しきを知る Zoom シンポジウム

2020

- ウィリアム・K・バルトン 青山霊園墓参
- バルトン 肖像復元リモート 建立式典
- 眞の地方創生事業の象徴 大山の麓から昇る太陽を纏る「オープンマインド朝陽ツアー」
- 眞の地方創生象徴事業化構想
- オープンマインド中秋の沈む太陽昇る名月

2019

- 国際アジア共同学会2019秋季大会 岡倉天心国際賞受賞
- 韓国西大門刑務所歴史館訪問
- ポーランド・アウシュヴィッツ訪問
- 対立から共生の文化ヘンシウム
- 全国・世界水の偉人覚醒顕彰祭開催
- ハリの響きを日本に！島根コンサート 研究所特別推薦
- 火の発祥の神社、熊野大社 熊野の聖火をいただき 聖火リレーを開催
- 島根県民会館で2000名を超える来場者を迎え 小泉純一郎元総理講演会を開催

2018

- 南京大虐殺記念館元館長 朱成山教授新書「私の100名の日本人の友人」12.13 都立大から国訳典へ 出版発表会
- イップ常子氏を招きシンポジウム開催
- 中国で「一隅を守り千里を照らす」小松昭夫の経営の道「経営理念手帳」書籍出版発表会
- ベルタ・フォン・ズットナー像が韓国へ出発

2017

- 入雲立つ出雲から陽が昇るシンポジウム開催
- 韓国・バルトン博士60周年追悼式で尹麗城代表理事が代読
- 国際二戦80周年博物館長フォーラム・中国全民族抗戦勃発80周年記念式典で構想・提言を確立 公博監事が代読
- ハワイ・アリゾナ記念館訪問、献花、寄付
- 島根原子力発電所国際プロジェクト構想発表・座談会開催

2015

- 中国・学苑出版社より「対立から共生へ」出版
- 入雲立つ出雲から陽が昇るシンポジウム開催
- 日英対訳「悠久の河」「天姥」「島根核発電所」出版

2014

- 入雲立つ出雲から陽が昇るシンポジウム開催
- 松江市八雲町に周藤彌兵衛翁像仮設建立
- オーストリア・ウィーンでベルタ・フォン・ズットナー没後100周年記念事業で平和大賞を受賞
- ズットナー像をウィーン平和記念館に半年間展示・寄付

2013

- オランダ・ハーグ「カーネギー平和宮100周年」記念事業「世界平和事業家20人」に小松理事長が選ばれ式典に出席
- 元慰安婦の李容済さんと弁護士会の方々による平和使節団を迎え出雲から陽が昇るシンポジウムを開催

2011

- アジア太平洋平和研究学会で講演
- 「朝鮮半島と日本列島の使命」出版

2009

- 遼瀋の時代 出雲から陽が昇るシンポジウム開催
- 安重根義士殉国90周年追悼式・安重根義士記念館竣工式に参加
- 「中国古典名言録」「竹島-独島問題入門」出版記念講演

2008

- 前向元中日友好協会副会長宅を訪問し国民国連構想を発表
- 第6回国際平和博物館会議、京都・広島開催協賛
- 松江で出雲和議フォーラム開催

2007

- 南京大虐殺記念館改築式典・フォーラム参加
- 中国山東省東栄市から贈呈されて孫子像を燕趙園に建立
- 中国海南島強制労働地訪問
- 韓国安重根義士殉国記念式典参列・明成皇后生誕地・陵墓訪問

2006

- 出雲大社で神月和議平和フォーラム開催
- 韓国・釜山市庁国際会議場で講演
- 南京国際平和フォーラムにて講演
- 平和環境健康特別区申請シンポジウム開催
- 燕趙園に西王母と八仙人大理石像を紹介し建立

2005

- ハワイ・アリゾナ記念館、真珠湾攻撃記念式典出陣、献花
- 中国南京記念館訪問、献花
- 韓国西大門刑務所歴史館、獄舎跡訪問・献花

2003

- 日本最大の中国庭園「燕趙園」に孔子・孟子像を建立

2002

- 日中英対訳「論語」出版
- 中国山東省済南・台児荘大戦記念館で中国側3000人日本側40人で孔子・孟子・周藤彌兵衛翁、清原太兵衛翁の銅像完成出陣式を行う

2001

- 中国人民抗日戦争記念館訪問、献花

1999

- 第3回神有月縁結び世界大会開催

1998

- 大韓赤十字社総裁・鄭元植（元首相）を通じて朝鮮民主主義人民共和国へ食糧支援金を寄贈

1997

- 第2回神有月縁結び世界大会開催
- 韓国独立記念館訪問、日本人として初めて献花、寄付

1995

- 周藤彌兵衛シンポジウム開催

1994

- 第1回神有月縁結び世界大会開催
- 郷土の偉人を顕彰する出版活動「一村一志」運動を開始
- 人間自然科学研究所設立

1988

- 若手経営者20名で「知革塾」開設

やくも水神 年表



- 2020.10 ●クラウド型リアルタイム表示 (特許第6527660号)で令和2年度中国地方発明表彰において「中国経済産業局長賞」を受賞
- 2019.3 ●8年の歳月をかけた3月に完成した日本最大の農林省国家プロジェクト九頭竜川灌漑施設に採用
- 2015.4 ●リアルタイムで市民へ情報を一般公開
●雨量監視制御システムを東京都武蔵野市に導入
- 2013.10 ●放射線モニタリングシステム発表
●リアルタイム監視システム発表
- 2011.11 ●水神Gシリーズ発売
- 2011.10 ●地域科学研究会セミナーで「CTで活用した」都市型社会インフラの再設計でスマートシティと題し発表
- 2010.10 ●第4世代携帯電話サービス(4G)開始
- 2010.10 ●野村総研未来創発フォーラムにて神尾文彦室長より「社会インフラの再設計が成長の鍵を握る」と題し水神を発表 東京会場2,500人、名古屋会場1,500人が参加
- 2010.6 ●水神Gシリーズ発表
- 2010.3 ●NTT主催ICTビジネス研究会でやくも水神について講演(東京)
- 2010.5 ●iPad発売(日本)
- 2009.9 ●Rubyワールドカンファレンスで水神技術発表
- 2009.7 ●Androidスマートフォン発売(日本)
- 2008.7 ●iPhone発売(日本)
- 2004.1 ●FOMA契約数が200万台突破
- 2003.7 ●データセンター東西2拠点化 (NTT DoCoMo代々木ビルに東日本サーバを設置)
- 2001.10 ●第3世代携帯電話サービスとしてFOMAを開始
- 2000.9 ●インターネットiモードに対応した新水神ネットワークを発表し全国展開を開始
●マンホールポンプ制御盤納入
●森首相IT戦略を国会で発表
- 1999.12 ●マンホールポンプコントローラ発売
- 1999.8 ●iモード利用者1,000万人突破
- 1999 ●NTT DoCoMo iモードサービス DoPa通信端末発売開始
- 1997.3 ●水道施設監視システム「マスター水神」開発
- 1996 ●NTT DoCoMo DoPaサービス開始
- 1995 ●プラント制御監視装置「パッケージ水神」発表
●第54回注目発明選定証受賞
●Windows95発売
- 1994 ●Windows対応 Newやくも水神発表
- 1993 ●第2世代携帯電話サービスとして2G登場 Windows3.1発売(日本語版)
- 1992 ●やくも水神発表 Windows3.1発売(英語版)
- 1988 ●データロギング装置納入
●パソコンと一般公衆回線監視装置納入
- 1987 ●NEC PC-9801用のMS-DOS 3.3発売
- 1985 ●第1世代移動通信システム登場 日本電信電話公社民営化
- 1981 ●小松電機産業株式会社を設立
- 1977 ●テレメーター(専用線)による遠方監視設備納入
- 1973 ●小松産業を設立



左のQRコードを読み取りご覧ください。

happy gate 門番 年表



日曜劇場
TOKYO MER
走る緊急救命室
MOBILE EMERGENCY ROOM
7月4日 日曜よる9時スタート



- 2018.5 ●スマートフォン・タブレットで門番を設定変更する「門番アプリ」参考出版
●自立モデル・防爆モデルを発表
- 2016.8 ●タイ・バンコクに駐在事務所開設
- 2015.2 ●豊洲新市場に門番を150台納入
●マジックオプション門番発表
- 2013.5 ●冷蔵冷凍モデル・防爆モデルを加えた happy gate 門番シリーズ発表
- 2012 ●内閣総理大臣表彰のつくり日本大賞優秀賞受賞
- 2011.5 ●ソウル支社を設立、現地法人KOMATSU KOREA設立
●エアカーテン・エアシャワー一体型発売
●ハイプレス構造のGシリーズ発売
- 2010.5 ●韓国ソウル支社を設立
●ハイプレス構造のGFシリーズ発売
- 2008.5 ●KV-WVシリーズ発売
- 2007.10 ●国土交通省 国土交通大臣表彰受賞
- 2000.8 ●東大阪市に大阪営業所開設
- 1999.9 ●オプション門番発表・発売
- 1998 ●KU-WUシリーズ発売
●シートシャッター「門番」の製造ライン及び本社機能を移管
- 1994.10 ●KT-WTシリーズ発売
- 1993 ●第10回地域社会貢献者賞受賞
- 1992.10 ●東京支社を港区浜松町に開設
- 1991 ●中小企業研究センター賞、ニュービジネス大賞 受賞
- 1990.10 ●韓国企業「東友」と業務提携、現地組立・販売を開始
- 1989.3 ●FMS板金無人ラインを県内企業に先駆けて導入
●八雲工場構に3階建て工場・事務所を新築
●門番デモ機を製作し全国ユーザーへ営業
- 1988 ●大型開口部向けにKL型を開発・発売
- 1986.10 ●文化シャッターとOEM契約 「エアキーパー」の商品名で生産し供給
●巻取方式のKSシリーズ開発・発売
- 1985 ●KMシリーズ発売
- 1980 ●自動カーテンシャッター開発・発売



左のQRコードを読み取りご覧ください。

日本全国の水の偉人リスト 172人 2019年4月～2020年20年調査

4月29日に開催する火と水のプロジェクトとし熊野大社鑽火殿で起こした火をいただき、岩坂御陵・神魂神社・切通し・剣神社・周藤彌兵衛翁像を火で繋ぐ聖火リレーを開催しました。

八雲ゆう人会の鯉のぼりとあわせ、周藤彌兵衛翁をはじめ世界の水の偉人を称え1000個の灯籠に名前・功績を記載し熊野大社の火を灯し周藤翁像と意宇川と鯉のぼりと灯籠で悠々の河を演出。同年4月に東京で開催された日本ビジネスインテリジェンス協会東アジア友愛フォーラムを経て、7月に中華農耕文明の発祥地とも言われる楊凌・西安から発表できる可能性が見えてきました。

また、北陸農政局による九頭竜川下流農業水利事業として福井県を流れる九頭竜川の監視管理を2019年4月より範囲を拡大し開始しました。

全国各地の水の偉人は
右のQRコードを
読み取りご覧ください。



黒字 農林水産省調査による水の偉人 56人

2019年4月24日小松電機産業調査による水の偉人 116人

エリア	功績地	出生地	172人 人物名	功績	灯籠記載功績文 (130字～150字以下)	生没年
0	北陸信越 福井県 坂井市	福井県坂井郡鳴鹿村	酒井利雄	坂井郡8千町歩の用水取入口であった鳴鹿大堰所の改良工事を計画、戦争で中断したが、戦後、昭和22年国営九頭竜川沿岸農業水利改良事業を9ヶ年計画で施工。24年より本格的に着工。そして28年に待望の通水となり、翌年に竣工した。	土木工事を主とする会社を創立した酒井利雄氏は、坂井郡8千町歩の用水取入口であった鳴鹿大堰所の改良工事を計画、戦争で中断したが、戦後、昭和22年国営九頭竜川沿岸農業水利改良事業を9ヶ年計画で施工。24年より本格的に着工。そして28年に待望の通水となり、翌年に竣工した。	1891年～1969年
1	北海道 札幌市	アメリカ合衆国 オハイオ州	エドウィン・ダン	真駒内牧牛場における水の安定供給のために建設を提案し、1879年に完成した真駒内用水は、のちに水田の灌漑用水としても利用され、周辺地域における稲作の定着に大きく貢献した。	真駒内牧牛場における水の安定供給のために建設を提案し、1879年に完成した真駒内用水は、のちに水田の灌漑用水としても利用され、周辺地域における稲作の定着に大きく貢献した。 北海道における畜産業の普及・発展に努め、酪農、乳製品・食肉の加工技術、大型農具を用いて農作業を行う技術などを伝えた。	1809年～1880年
2	北海道 石狩市	岡山県岡山市	岡崎文吉	岡崎式河川補修の基礎技術である単床式ブロックは、岡崎没後25年を経た1970年頃の石狩川河口付近の補修に採用されており、またミシシッピ川流域の護岸工事に使われている。	近代日本の河川治水は捷水路方式を基本としてきましたが、岡崎の唱えた「自然主義」に基づく治水方式は近年の環境保護思想とともに高評価され千歳川河川整備計画に取り込まれました。岡崎式河川補修の基礎技術の単床式ブロックは、石狩川河口付近の補修に採用され、またミシシッピ川流域の護岸工事に使われています。	1862年～1928年
3	北海道 小樽市	高知県	廣井 勇	小樽港の成功によって日本の近代港湾の整備が進みました。そのことから、小樽港の防波堤、特に北防波堤は重要文化財と同じく高い価値を持つと評価されています。	広井勇博士は防波堤に当たる波の強さを測定し、防波堤に使うコンクリートの性能を試験し、日本初のコンクリート製の外洋防波堤を建設しました。小樽港の成功によって日本の近代港湾の整備が進みました。そのことから、小樽港の防波堤、特に北防波堤は重要文化財と同じく高い価値を持つと評価されています。	1872年～1945年
4	青森県 十和田市	花巻市	新渡戸傳	新渡戸稲造の祖父、米の生産を安定させ農民たちの生活を救うため、奥入瀬川から水を引き、不毛の三本木原台地に2,500haの水田を開発する計画を立てました。資金は、藩からの出資金のほか沢山の出資者を募り、藩の私財も充てられました。	「三本木原台地」と呼ばれた十和田市中心は荒れ野原。この土地の開拓に着手したのが新渡戸稲造の祖父、新渡戸傳。米の生産を安定させ農民たちの生活を救うため、奥入瀬川から水を引き、不毛の三本木原台地に二千五百ヘクタールの水田開発を計画。藩からの出資金のほか多くの出資者を募り藩の私財も充てられました。	1793年～1871年
5	青森県 五所川原市	北津軽郡中里町	武田源左衛門	翌元禄4年には、五所川原堀の工事担当を命ぜられ、藤崎村から五所川原村まで長さ1824間、幅平均2間半の堀を開通させたほか、金木新田の開拓や治水に大いに力を振るい、数々の功績を挙げました。	江戸時代の奉行だった武田源左衛門は、五所川原堀の工事担当を命ぜられ藤崎村から五所川原村まで、長さ千八百二十四間、幅平均二間半の堀を開通させたほか金木新田の開拓や治水に大いに力を振るい、数々の功績を挙げました。 武田源左衛門にちなんで武田村と名付けられた地域は武田地区と呼ばれるようになりました。	1653年～1712年
6	青森県 五所川原市		徳田伝兵衛	徳川中期、金木新田開拓の功労者。元禄11年(1698)より、水利関係の奉行として、長さ1381間(約2.2キロ)の川倉川、ならびに長さ2210間(約4キロ)のオノ神川開削を指揮しました。また藤枝溜池を造成するとともに、岩木川の堤防築造などにも尽力しました。	徳川中期、金木新田開拓の功労者。元禄十一年(一六九八年)より、水利関係の奉行として、長さ千三百八十一間(約二、二キロ)の川倉川、ならびに、長さ二千二百十間(約四キロ)のオノ神川開削を指揮しました。また藤枝溜池を造成するとともに、岩木川の堤防築造などにも尽力しました。	江戸中期
7	青森県 五所川原市		鳴海勘兵衛	津軽信政から藩の直営工事の開発派立頭(指揮者)を命ぜられ、五所川原新田15ヶ村の開拓に成功し、五所川原初代の代官となりました。また、板屋野木(北津軽郡板柳町)の蔵奉行にも任じられました。続いて、金木新田18ヶ村の開拓にも尽力し、藤枝溜池(金木町)の築造に協力したり、岩木川堤防の建設にも努力しました。	津軽信政から藩の直営工事の開発派立頭(指揮者)を命ぜられ、五所川原新田の開拓に成功し、五所川原初代の代官となりました。また、板屋野木(北津軽郡板柳町)の蔵奉行にも任じられました。 続いて、金木新田の開拓にも尽力し、藤枝溜池(金木町)の築造に協力し、岩木川堤防の建設にも努力しました。	～1721年
8	青森県 五所川原市	五所川原	阿部武智雄	岩木川改修期成同盟会長として岩木川の治水に尽力し、また造林事業にも力を注いだ	岩木川改修の恩人。県会議員時代から津軽の生命線である岩木川の改修事業実施に奔走、明治33年経1市4郡の県会議員、市町村長、貴族院院議員ほか有力者に呼びかけ岩木川改修期成同盟会を結成、自ら会長となって政府並びに商院に陳情し、ついに50有余年後の今日まで続けられている一大事業をもたらしました。	1861年～1931年
9	岩手県 奥州市	岩手県	後藤寿庵	当時、水不足により砂漠のようだとされたこの地に、胆沢川から水を引き「寿安堰」をつくり、豊かな穀倉地帯の礎を築きました	後藤寿庵は、水不足により砂漠の様だとされた地に、西洋の技術を取り入れ胆沢川から水を引き上げる「寿安堰」を造り、豊かな穀倉地帯の礎を築きました。大正三年、治水の功により従五位が贈られました。昭和六年には壽庵の跡だった跡に壽庵廟堂が建てられ、毎年九月十一日には壽庵祭が行なわれています。	1577年～1638年

鳥根県 治水の偉人と人間自然科学研究所出版書籍・朗読テープ



漫画・小説・児童文学・朗読テープ
周藤彌兵衛 (1650年～1752年) 人間自然科学研究所



漫画・小説・児童文学・朗読テープ
大楯七兵衛 (1621年～1689年) 人間自然科学研究所



漫画・小説・児童文学・朗読テープ
清原太兵衛 (1712年～1788年) 人間自然科学研究所

1994年 周藤彌兵衛翁シンポジウム



2002年 中国山東省台児荘 孔子・孟子・周藤彌兵衛・清原太兵衛像出発



2003年 中国庭園燕趙園に孔子・孟子像を建立



2005年 アリゾナ記念館訪問・献花



2006年 燕趙園に西王母と八仙人を紹介し建立



2007年 燕趙園に孫子像を建立



2013年 平和宮 100周年で世界平和事業家 20人に選ばれ式典に出席



写真集ダウンロード



2014年 ウィーンでズットナー賞を受賞、ズットナー像を貸し出し



写真集ダウンロード





写真集ダウンロード



朗読劇初公演 一人で四十二年、河の流れを変えた
八雲立つ 日本出雲の偉人

悠久の河

世界史に例のない周藤彌兵衛翁物語

11/20 大場料 無料 日曜日

開催日 14:00 ~ 20:00

時間

場所 小松電機産業 太陽ホール

基調講演

筑紫大佳 舟木美代子 イップ篤子

プログラム

- 14:00 ~ 14:50 オープニング / 書籍贈呈式
- 14:50 ~ 15:30 念いを現実化する教育と文化 筑紫大佳 光栄啓典 氏 賞詞
- 15:30 ~ 15:50 彌兵衛翁と私の念い 舟木美代子 日本書家
- 16:00 ~ 16:50 朗読劇 悠久の河 劇団映画舞社
- 17:00 ~ 17:40 ウィーン・ハプスブルグ家の女性たち イップ篤子 オーストリア公使館参事
- 18:20 ~ 20:00 交流会 会費5,000円 書籍代込

人間自然科学研究所
後援 小松電機産業株式会社 太陽の会 和の文化研究会 学術委員会

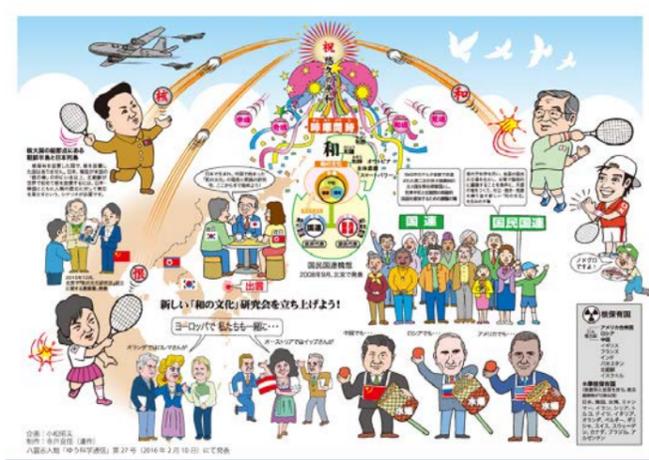


写真集ダウンロード





写真集ダウンロード



第二部 講演者プロフィール

磯江 公博
いそえ きみひろ
株式会社エネクスエネルギー開発代表取締役
1952年東京都葛飾区生まれ。早稲田大学卒業。1973年、米国カリフォルニア州に移住。1980年、米国カリフォルニア州で起業。1985年、米国カリフォルニア州で起業。1990年、米国カリフォルニア州で起業。1995年、米国カリフォルニア州で起業。2000年、米国カリフォルニア州で起業。2005年、米国カリフォルニア州で起業。2010年、米国カリフォルニア州で起業。2015年、米国カリフォルニア州で起業。2020年、米国カリフォルニア州で起業。

小松 昭夫
こまつ あきお
小松電機株式会社代表取締役
一般財団法人人間自然科学研究所理事
1944年東京都八雲町生まれ。1963年、早稲田大学卒業。1968年、早稲田大学卒業。1973年、早稲田大学卒業。1978年、早稲田大学卒業。1983年、早稲田大学卒業。1988年、早稲田大学卒業。1993年、早稲田大学卒業。1998年、早稲田大学卒業。2003年、早稲田大学卒業。2008年、早稲田大学卒業。2013年、早稲田大学卒業。2018年、早稲田大学卒業。2023年、早稲田大学卒業。

第三部 ベルタ・フォン・ズットナー像出発
ベルタ・フォン・ズットナー像は、1914年にドイツで制作された。この像は、ズットナーの功績を称え、彼女の精神を後世に伝えるために制作された。この像は、ズットナーの功績を称え、彼女の精神を後世に伝えるために制作された。この像は、ズットナーの功績を称え、彼女の精神を後世に伝えるために制作された。

参加申し込み メール (staff@komatsuelec.co.jp) もしくは FAX (050-3161-3846) まで返信願います。

氏名	住所または団体名	電話番号	メールアドレス

問い合わせ先：人間自然科学研究所 八雲志人館 交易場（こうえきば） 080-3008-6808
主催 一般財団法人人間自然科学研究所 / 協賛 島根県発・エネルギー問題県民連絡会



写真集ダウンロード





写真集ダウンロード



写真集ダウンロード









やくも水神関連記事



やくも水神
新聞・雑誌アーカイブス

過去に掲載された新聞記事すべてを
ご覧いただけます。



2021年10月6日
日本経済新聞
水管理装置、水没しにくく
全国自治体に PR
小型で安価、手軽さも武器



2018年12月12日
日本水道新聞
福島県南会津町
IoTによる効率的監視・管理
「クラウドが組織活性化の礎に」

その他関連記事



2022年1月18日
山陰経済ウィークリー
さんいん事業物語
「やくも水神」



2022年1月1日
山陰経済ウィークリー
さんいん事業物語
「事業者の資質」



2018年12月10日
さんいんキラリ 2021 秋 50 号
小松昭夫インタビュー



2021年10月22日
日経産業新聞
上下水道、クラウドで管理
小松電機産業、災害対策に力



2020年12月1日
月報はつめい
中国地方発表明彰式
中国経済産業局長賞を受賞して
小松電機産業株式会社
代表取締役 小松昭夫



2017年9月22日
日本水道新聞
霧島市長×小松昭夫 トップ対談
鹿児島県霧島市・旧1市6町
120カ所の施設監視を同時実現
“やくも水神”が地域に大きく貢献



2022年1月11日
山陰経済ウィークリー
さんいん事業物語
「新事業への挑戦」



小松電機産業
人間自然科学研究所パンフレット
(きらりベース)



2017年9月22日
さんいんキラリ別冊
なかじまさえインタビュー

おはようサンデー 水の偉人関連放送



浜菜みやこ (ハマミー)
全国のコミュニティFM局で放送中!



2021年6月13日
◆太陽ホールから生放送 -57
ゲスト：小説周藤彌兵衛著者 / 歴史研究者
交易場修さん
6月5日故きを温ね 新しきを知る Zoom シンポジウム
交易場修さんゲスト出演
さんいんキラリ感想



2020年11月29日
◆ムーンルームから生放送 -29
嫁ヶ島が国の登録記念物へ
嫁ヶ島万灯会、全国世界水の偉人の紹介
継体天皇と九頭竜川事業、中国経済産業局長賞受賞
について
岡倉天心について
しじみアーティストなかじまさえさんの紹介



2020年10月4日
◆ムーンルームから生放送 -22
オープンマインド中秋の沈む太陽昇る名月クルージング
ゆう科学通信の紹介
漫画大楯七兵衛を日本語と韓国語で朗読
太陽の國水の都緑の街の紹介



2020年9月20日
◆ムーンルームから生放送 -20
小室孝太郎さんの紹介
漫画周藤彌兵衛の朗読
韓国語版の漫画を制作した背景
中海穴道湖園、連結汽水湖の新事業について



2021年7月11日
◆ムーンルームから生放送 -61
7月7日の島根豪雨災害の様子
全国世界の水の偉人 172 人顕彰碑建立プロジェクト
TOKYO MER に happygate 門番が登場



2020年12月6日
◆ムーンルームから生放送 -30
中村哲さんのアフガニスタンでの功績
全国世界の水の偉人に 172 人目に登録
治水の偉人周藤彌兵衛翁の紹介
太陽の國水の都緑の街 CD、朝鮮半島と
日本列島の使命の感想



2020年10月25日
◆ムーンルームから生放送 -25
周藤彌兵衛翁を紹介
朝鮮半島と日本列島の使命を紹介
ベルタ・フォン・ズットナー像 5 体を 5 カ国に建立予
定
広島に被爆石とイップ常子さんの紹介
国民国連について



2020年9月27日
◆ムーンルームから生放送 -21
漫画清原太兵衛の朗読
世界のフィランソロピスト 20 人に選ばれ、ベルタ・フォ
ン・ズットナーの銅像の除幕式を紹介
オープンマインド朝日ツアーの紹介



2020年9月13日
◆太陽ホールから生放送 -19
由志園のイルミネーションを紹介
悠久の河の巻頭言を朗読
岡倉天心国際賞受賞・九頭竜川にやくも水神が採用・
周藤彌兵衛翁の紹介
水の偉人覚醒顕彰祭の紹介
大楯七兵衛の紹介



下水道事業団主催 欧州下水道視察参加報告

2002年7月9日(火)～7月18日(木)

メンバー：佐藤、木次、川中

全 22 ページ

小松電機産業

1 事業者の資質

【会社概要】	
小松電機産業株式会社/松江市	
創業	1973(昭和48)年
営業種目	ソフトウェア開発事業 通信システム開発運営事業 電気機械器具製造業
資本金	1億円
代表取締役	小松昭夫
従業員数	100人
所在地	松江市乃木福富町735-188
電話番号	050-3161-2490

長期的な時流を読み、卓越した着眼・実行力で、クラウドによる総合水管理システムのパイオニア「やくも水神」と、高速シートシャッターシステム「happy gate 門番」という二つの大きな事業を創出した小松電機産業(株) (本社・八雲町、事業所 松江市乃木福富町、小松昭夫・会長兼社長)。二つの事業は、社会のニーズや時代の変化を先取り、市民の日常生活や経済活動を支えてきた。ベンチャービジネスの旗手と言われる小松(77)が、四半世紀にわたって推し進めてきたのが、ドゥー&シンクタンク「人間自然科学研究所」の平和事業だ。「和護」の旗を掲げ、国内外の戦争・平和祈念館を数多く訪問し、国際シンポジウム開催は30回を超える。「平和・環境・健康はひとつ」という言葉は、ラジオ放送やYouTubeなどを通して世界各地で知られるようになった。

ラジオキットで経済経験

空間価値をプロデュースする高速シートシャッターシステムで、「ニュービジネス大賞最高賞」や「ものづくり日本大賞優秀賞」、科学技術庁の「注目発明選定証」などの受賞で、社会性の高い事業が大きく評価されてきた小松電機産業。そのスタートラインは、ものづくりが好きな一人の少年の挑戦だった。「中学生の頃には、ラジオの組み立てキットを買ってきて自分

で作っていましたね」と振り返る小松。ラジオ製作雑誌が相次いで創刊され、受信機を製作する少年も少なくなかった時代、小松少年は物品税がかからないラジオの組み立てキットを購入し、完成させたラジオを知り合いに販売した。今も理念に掲げる「買い手よし・売り手よし・世間よしの三方よし」。10歳代半ばには、技術者に加え、事業家としての資質が既に芽生えていたようだ。

卒業生中でトップ評価

家庭環境と長男の責任感から、地元本社研究部門があり、全国展開している農機メーカーに就職することを目指し、松江工業高校機械科に進学した。旧八雲村(現松江市八雲町)の実家から約10kmの地道を自転車で行き、担任の先生の親戚が営む家具店でペーパーベッド・タンスの設計、広報の仕事を手伝った。得た収入で機械の専門書や50ccの新車バイクの頭金を払って購

トランスミッションに興味 耕運機の将来展望を卒論に

入。1200人の生徒で、新車のバイクに乗っていたのは小松ただ一人だったという。

専門科目の機械設計には特に力を注いだ。トランスミッションに興味を湧いた小松は高校3年生の時、全国の耕運機メーカー約20社に卒業論文のための資料送付をはがきで依頼した。すると熱意ある学生の頼みに多くのメーカーが応えてくれた。想像を超える資料を元に小松は、日本の耕運機の発展の経緯と現状、将来の展望を論文にま

とめ、全卒業生中トップの評価を得た。

新人ながら研究所配属

他社情報に圧倒的に詳しい弱冠18歳の新人小松は、大手総合農機具メーカーで、地元唯一の1部上場会社「佐藤造機」(現三菱マヒンドラ農機)に入社、主力商品であった耕運機の開発・設計部門に配属され、トランスミッションの性能改善に注力

した。

しかし、他社に追従する文化の会社は1971(昭和46)年、農具・農機・農業機械・精密機械へと急速に変容するトレンドに乗れず、経営破綻。若くして業界全体を本質的な視点からグローバルに考えるようになった小松は、会社に何度



豊洲市場に納入されている高速シートシャッター「門番」



で、2年間社長側近として働き、事業の醍醐味を体験することができた。

「いろいろな見本市を回り、見識を深めました。人の話をよく聴いて、相手の期待値を探り、それを越える提案力があれば、小さな会社でも大手と互角に戦えることを実感しました」

73(同48)年、故郷に戻り、電気と経理の基礎知識を学んだ弟と起業。二人の失業保険30万円を元手に、工具と中古小型トラックを購入し、自分たちで改造した実家の納屋でスタートを切った。手元に残った現金はわずか10万円だった。

(文中敬称略)
―次号に続く―
(フリーライター・門脇奈津子)



松江工業高校時代の小松昭夫社長



佐藤造機研究所勤務時代の小松昭夫社長(左から2人目)=1966(昭和41)年

も改善策を建言したが耳を貸してくれなかったという。「地域・会社の文化が破綻の原因」。若い時の会社倒産の経験は、のちの会社経営に大きく役立つ教訓となった。

小松は26歳の時、休暇を取って安来市の清水寺で1カ月、座禅に入った。その後、事業家を目指す退職。事業を学ぶため大阪の小さな機械設計事務所に半年間の契約で入社。プラント設計の難しさを実感した。次に、設備用水中ポンプ販売や、大型フェリーの稼働式稼働橋の提案、設計、製造、納入、メンテナンスを総合的に行う社員15人の商社

小松電機産業

2 新事業への挑戦

【会社概要】
所在地 松江市乃木富町735-188
営業種目 ソフトウェア開発事業
通信システム開発運営事業
電気機械器具製造業
代表取締役 小松昭夫
従業員数 100人
電話番号 050-3161-2490

少年時代からものづくりに興味を覚え、中高生の時には技術者と事業家の両方の資質を身に付けていたベンチャービジネスの旗手、小松昭夫(77)。8年間の農機具メーカーでの勤務を経て、大阪で設計や経営の実践的な基礎を学んだ小松は1973(昭和48)年2月、故郷・島根県八

雲村(現松江市八雲町)に帰郷、小松電機産業(株)(松江市乃木富町、小松・会長兼社長)の前身、小松産業を立ち上げた。
納屋を自ら改造し起業



創業1年後の納屋を改造した小松産業本社前にて。前列左が小松会長兼社長=1974年ごろ

ベニヤ板やアルミサッシを買ってきて、自宅の庭先にあった納屋を自らリフォームした作業場が、本社。電機と経理の基礎を学んだ実弟と2人だけでの出発だった。創業時の運転資金はわずか10万円。そこで元手がかからないポンプ修理業からスタートした。

近郊を訪ね歩き、井戸・農業・土木・汚水ポンプの修理を受注。さらに地元企業の制御盤組立や配分電盤製作などを請け負い、取引先の確保と資金の蓄積を重ねていった。下水用ポンプなどが嫌がるような仕事も積極的に受けることで顧客が増え、仕入れ先との関係も構築。腕の良

さが認められるようになるとポンプの販売を始め、さらにはポンプに関連した自動制御盤の製作にも挑んだ。
創業から数年後には、松江松下電器(現パナソニックエレクトロニクス)デバイスジャパン株式会社(生産設備の自動制御装置、郊外型スーパの出現で需要が高まった冷凍冷蔵庫の自動制御盤など)を手掛けるようになった。経営・管理・技術の基礎を固め、社員を増やした小松が、次



小松昭夫会長兼社長
龍谷大学教授2名を招き「対立から共生の文化へシンポジウム」開催



夕方、宍道湖畔2地藏前にて「全国世界水の偉人172人覚醒頭影祭」(2019年6月8日開催)

シートシャッター「門番」開発 改良重ね全国ヒットの製品に

に模索したのは、下請け企業からオリジナルメーカーへの飛躍だった。

80(同55)年、小松とゆかりの深い三菱農機から、後の大ヒット事業につながるカーテンシャッター製作の依頼を受けた。車両が通過する際にすばやく開閉する仕組みで、防寒のため工場の出入り口に据え付けたという内容だった。

配電盤の受注生産に追われていた小松は当初、開発に携わる余裕がないことを理由に依頼を断っていた。しかし、技術力を見込んだ度重なる要請に応じざるを得ず、翌81(同56)年に開発に着手した。

そんな中、小松は究極の試練に見舞われた。安価で、ラニングコストの低い自社の水道計装装置の需要が急増し、大手電機メーカーや地元電気工事業界のやっかみを買ったのだ。政財界の既得権益団体と真つ向からぶつ



長島克己村長(当時)を招いて折り畳み式シートシャッター「門番」発表会(八雲村本社にて)=1985年10月



1991年ニュービジネス大賞受賞
ニュービジネス協議会2代目会長の関本忠弘氏(日本電気株式会社社長)から表彰を受ける小松昭夫会長兼社長(右)



り、配電盤の引き合いや受注が激減。倒産のうわさが流れ、社員の6割が会社を去ってしまった。

ニュービジネス大賞に

このピンチをチャンスにすべく、三菱農機の依頼で製作していたシートシャッターを基に、現地組み立て方式で短期間での製品化を実現。85(同60)年には、折り畳み式初代シートシャッター「門番」を全国発売した。その後、巻取り式にしたり、ドイツ製サイクロン減速機を内装したモーターに変えたりするなど、短期間で安全性、耐久性、省エネ効果

を飛躍的に向上させていった。現在の原型を開発した後は、当時として珍しいビデオカタログを製作。東京、大阪の展示会に出展、本格的な全国販売をスタートさせた。

稼働しなくなった配電盤ケースの板金設備を転用することで新たな設備投資をすることなく「門番」の量産を実現。まさに、「災い転じて福となす」を現実化した。
強い冬の季節風が吹く山陰地域特有の悩みを解決することから誕生した「門番」。冷暖房、防塵、防風効果が高まることなどが劇的に評価され、中央会推薦

三方よし精神で技術公開

ダブル受賞の前の90(同2)年、韓国企業と業務提携。冬は氷点下10度以下、夏は40度近くにもなる韓国からは、発売当初から問い合わせが相次いでいた。
翌91(同3)年には、株式市場に近い位置にいたにもかかわらず、韓国への技術無償提供を発表、周囲を驚かせた。その後、社団法人日本シャッター・ドア協会、シートシャッター委員会の



屋上全面に太陽光発電を備えた松江工場
歴代「門番」が展示されている「happy gate 門番」
板金無人製造ライン

初代委員長に就任した小松は、構造・安全・保守基準の作成、業界初のエコマークの取得を通じて、国内のライバル各社にも技術を公開。欧米メーカーからも積極的な技術資本提携の誘いを受け、世界的な交流を深めていった。小松は、「買い手よし・売り手よし・世間よしの三方よし先義後利です」と笑う。

「門番」シリーズは、その後さらなる進化を遂げ、東京・豊洲市場をはじめ、各地で需要が拡大している。

そして小松電機産業は、次なる革新的新事業を世に送り出す。松江生まれのプログラミング言語「Ruby」で構築された、社会インフラ・クラウドの先駆け、水の総合管理システム「やくも水神」だ。

(文中敬称略)
(次号に続く)
(フリーライター・門脇奈津子)

小松電機産業

3 やくも水神

【会社概要】
所在地 松江市乃木富富町735-188
営業種目 ソフトウェア開発事業
通信システム開発運営事業
電気機械器具製造業
代表取締役 小松昭夫
従業員数 100人
電話番号 050-3161-2490



クラウド型リアルタイム表示で令和2年度中国地方発明表彰「中国経済産業局長賞」を受賞。中央が小松昭夫会長兼社長＝2020年10月

作業場に改修した納屋で起業した小松電機産業(株)(松江市乃木富富町、小松昭夫・会長兼社長)は、高速シートシャッター「門番」シリーズの開発・製造販売で、オリジナルメーカーとして飛躍的に成長を遂げた。さらなる転機となったのが、同社の原点「水」に関連する商品の開発だった。同社は、クラウドによる水の通信インフラ事業と、全国の治水偉人顕彰事業を、平和の事業化の入り口と位置づけ、力を注いでいる。

電話専用線の遠方監視

下水用ポンプの修理から始まった小松電機産業のちにオリジナルブランドとして名をさせる水管理システム「やくも水神」につながる最初のステップは1977(昭和52)年、電電公社専用線による遠方監視装置の開発だった。

88(同63)年には、公衆電話回線を使用した監視システムを島根県平田市(現出雲市平田地区)、さらに、滋賀県びわ町、島根県八束町(現松江市八束町)の農業集落排水処理施設へ納入、実績を積み重ねていった。
92(平成4)年、広域に分散している下水処理施設・マンホールポンプを通信回線で結んだ遠隔制御監視システム「やくも水神CAN」を発表した。
現場に行かなければ実態がつかめなかった廃水データを、一般電話回線でつなぎ、遠隔監視・管理できるという画期的なシステムだった。宍道湖の水質悪化と中海淡水化干拓事業との関係性に、特別な関心を持っていた小松(77)だからこそ生み出したのかもしれない。

注目発明選定証を受証

94(同6)年には脱リン、脱



やくも水神を紹介する小松昭夫会長兼社長(右端)＝松江市乃木富富町、小松電機産業

水の総合管理システムを開発 全国自治体で実績積み重ねる

やタブレットで遠隔操作ができるようにした。性能が飛躍的に向上し、急速に全国に普及していった。

「水の行政は縦割り。しかし

『やくも水神』は、一つのスマホやiPadで上下水道から農業・産業用水、水門、消雪などまでトータルで管理できます。天気予報を組み合わせた広域クロス

オーバープラットフォームの提供は、他社にないコンセプトです」と小松は語る。

「当初周囲から、『官公



継体天皇ゆかりの3000億円をかけた福井県九頭竜川・日野川・足羽川流域国営・県営パイプラインに「やくも水神」採用

「やくも水神」のクラウド型リアルタイム表示が公益社団法人発明協会の中国地方発明表彰で中国経済産業局長賞を受賞した。

「水は平和の源の念い

「やくも水神」ネットワークシステムは現在、北海道から沖縄まで全国の自治体3割弱に当たる487自治体1万5200を超える施設で導入されている。現場の巡回を極端に減らし、少人数でも管理可能なシステムは、小規模の自然環境が厳しい自治体で特に大きな効果を発揮している。また、ポンプ制御通報装置を遠方操作管理システムに進化させ、部品点数を5分の1に縮小してユニット化。水没レベルが



浜田市では「やくも水神Gシリーズ」を使い、上下水道・簡易水道・工業用水182施設を一元管理している

40代ほど上がり、洪水被害を受けにくくなった。内蔵電池を備え、停電時も標準24時間(最長7日間)稼働できるようにした。各種メーカーの制御盤でも短時間でクラウド管理に移行できることも、注目を集めている。

「やくも水神」事業を通じて、平和プラットフォーム構築の一翼を担うと語る小松。「やくも水神」「門番」という二つの大きな事業に加え、同社が力を注いできたもう一つの欠かせない柱が、「ドゥー&シンクタンク人間自然科学研究所」だ。1994(同6)年の設立以来、「平和・環境・健康はひとつ」を世界へ発信、恒久平和モデル創出を目指している。「水は平和の源」の念いに根付く活動の発端には、若き日の小松のある経験があった。

(文中敬称略)

(フリーライター・門脇奈津子)

次号に続く

クラウドの先駆け水の総合管理システム「やくも水神」

自治体により上下水道料金 8倍の差

広域クロスオーバー管理

世界に先駆けRubyでシステム構築

経費と担当者の負担 劇的に削減



やくも水神について発表する小松電機産業の担当者＝2010年6月

小松電機産業

4 人間自然科学研究所

【会社概要】
所在地 松江市乃木富富町735-188
営業種目 ソフトウェア開発事業
通信システム開発運営事業
電気機械器具製造業
代表取締役 小松昭夫
従業員数 100人
電話番号 050-3161-2490



人間自然科学研究所のマークはユーラシア大陸から見た日本列島、星は竹島

けた。「突き落とせ」と叫んでいたと知ったのは、彼が降車した後のことだ。言葉の裏には強い反日感情があった。「この事件以来、歴史を学ぶことの重要さを痛感したのです」と小松は振り返る。

独立記念館に献花・寄付

それから数年を経た中国、韓国では、愛国主義教育への傾倒が目立ち始め、抗日記念館の建設が相次いだ。きっかけは、日本で起こった第一次教科書問題だった。「このような状況が続けば、日本は、人物人財が育たない国になり、組織や国家が内部崩壊していく。メディアと学校教育で近現代史を教えてこなかったことが根本原因」。そう確信した

時代を先取り、高速シートシヤッター「happy gate 門番」総合水管理「やくも水神」という二つの大事業を創出、システム化してきた小松電機産業(株)（松江市乃木富富町、小松昭夫・会長兼社長）。同社の進める事業は、人々の暮らしの質を向上するだけにとどまらなかつた。1994（平成6）年、ドゥー&シンクタンク「人間自然科学研究所」を設立、世界を舞台に平和事業を展開。人類史、世界視野で現状を見つめ、共感の場を生み出し、対立から統合・発展に進めるようさまざまな活動を重ねている。

韓国旅行の経験が契機

小松（77）に、強い平和への念いと行動力が生まれたきっかけは、30歳の時、電機業界の旅行で初めての海外、韓国を訪れた時の出来事だった。当時の韓国は戒厳令が敷かれていて、観光客



(左)2013年、「平和宮100周年」式典前夜祭にカーネギー曾孫とともに参加。(右)2014年、ズットナー女史没後100周年記念で、銅像作者の国際弁護士・芸術家ロレマ女史。6ヶ月間ズットナー像をウィーン平和記念館に貸出。広島・長崎・板門店・ウィーン・ハーグ5カ所同時建立を目指す

戦後責任果たす未来づくり 事業を通じて世界で平和活動

小松は、社員や取引先らと訪問団を結成し、各地の平和祈念館を訪問するようになった。97（同9）年には、日本人として初めて、韓国の独立記念館に献花・寄付。2001（同13）年には、中国人民抗日戦争記念館、その翌年には、台児荘大戦記念館を訪問、同様に献花、寄付を行った。

所など、戦争の痕跡が残る世界各地に足を運んでいった。終戦時私は2歳だったので、戦前・戦中責任はありません。しかし、戦後責任があります。なぜ戦争が起きたのか。自分が人間だという認識があれば、時代の背景やプロセスをよく研究し、さまざまな対立を生かし統合、新しい未来を創る義務と責任があると考えたのです。小松の口調が強く、熱くなった。

「世界の20人」の一人に

人間自然科学研究所は、世界各地の戦争記念館への訪問だけでなく、長年に渡り、平和フォーラムを開催。さらに、江戸時代中期、現在の松江市八雲町で、水害から村人を守るため、意宇川の開削をした周藤彌兵衛や、出雲平野西部で開拓と治水に取り組んだ大梶七兵衛ら、水に関する世界の偉人を顕彰する活動も行ってきた。

四半世紀に及ぶ一貫した活動は国際的にも注目され、13（同25）年、オランダ・ハーグにある



(左)1997年、韓国・天安市の独立記念館に日本人として初めて献花・寄付 (右)2001年、日中戦争勃発の地、中国北京郊外盧溝橋「抗日戦争記念館」にて献花、寄付



2005年、米国アリゾナ記念館「平和祈念式典」で小松昭夫社長が献花・寄付 (右)2017年、39人の訪問団で再訪、名誉団長 小松千恵子氏が「真珠湾攻撃生存者の元兵士アルフレッド B・K・ロドリゲス氏と握手、趣意書を発表



2014年、8月1日水の日、松江市八雲町・日吉親水公園での周藤彌兵衛翁銅像（米国製青銅、小松電機産業寄贈）建立除幕式。燕趙園の孔子・孟子像と同じ、松江歩兵第63連隊の兵士が多数戦死した中国山東省の台児荘で制作



(左)2009年、第二次世界大戦で2000万人が亡くなったロシアのウラジオストック・ハバロフスクの慰霊碑、シベリア慰霊平和公苑日本人墓地を22名で訪問・献花 (右)2019年、ヘルタ・フォン・ズットナー像作者、芸術家・国際弁護士のイングリッド・ロレマ氏と合流、アウシュヴィッツ強制収容所跡地、ワルシャワ蜂起記念碑等を慰霊訪問



2021年2月22日「第0回 平和・環境・健康は一つ 国際Zoomシンポジウム」を小松電機「太陽ホール」を起点に開催。国内外から29人の講演者がスピーチ

力所同時建立プロジェクトも進行中だ。

「門番」と「やくも水神」という大きな二つの事業を興した小松電機産業。三つ目の事業として力を注いだ。平和の事業化に向けた活動も、国内外の大学や戦争記念館、ラジオと連携しつつ、各地に浸透しつつある。今年2月22日にシンポジウムを開催、新構想「国民国連」を提言予定だ。

「多発する自然災害に、人為災害、コロナ禍が重なり、宗教・経済・政治の三つの関係性で創ってきた人類社会を根本的に見直す必要がある。未来が拓けない状況になっている。正義から道理へ歩いた後に道ができる。今争っている時間はない。きつぱりと言いつつ切った小松。その念いは、さらに先を見据えている。

（文中敬称略）

（フリーライター・門脇奈津子）



島根県松江市八雲町に流れる意宇川日吉切通し
洪水を繰り返す暴れ川を1706年、56歳にして一念発起した
周藤彌兵衛は岩山の剣山に槌とノミで切り開く苦行に立ち向かい、
1747年、97歳にして日吉切通しを完成させ、意宇川の
流れを変え洪水から村を守り意宇川の恵みをもたらした。



日吉切通し
ドローン映像



人間自然科学研究所

<https://www.hns.gr.jp/>

〒690-0046 島根県松江市乃木福富町 735-188
TEL: 050-3161-2490 FAX: 050-3161-3846

無断転載禁止
No reproduction or
replication without written
permission.
ver.20220203